

池原 昭治

さやまの伝本

伝・八丁の渡し

鎌倉街道の入間川に「八丁の渡し」と呼ばれるところがあります。大きな橋もなく人々は、川の浅瀬を探しながらの徒歩渡りでした。

昔、木曾義仲が源頼朝に討たれます。そのとき義仲の嫡子で十二歳になる清水冠者義高は、頼朝の娘大姫の計らいで女装をして入間川まで逃れて



きます。そして、八丁の渡しにさしかかったところで、無念にも追っ手によつて討たれてしまっています。



入間川の八丁の渡し

が義高終焉の地とされ、今も残る国道16号線沿いの「清水八幡」のお社と、奥州道に安置されている「影隠地蔵」には、多くの参拝者が後を絶ちません。

この八丁の渡しは、市内に二か所あるとされています。その一つは、子の神さまを下り、本富士見橋周辺の中島辺りだとか、もう一つは奥富の前田、入間川堤防に建つ九頭龍大権現の石仏辺りから柏原へ渡る浅瀬です。

春の入間川の土手を歩いていきますと、周りは緑に包まれ、また、堤内では少年・少女のスポーツが盛んで、明るい元気な声と野鳥のさえずりが聞こえる中で、の歴史ウォーキングが楽しめます。

市民の作品展

童句

童句は、自分が童心に返って詠む俳句です。狭山市童句研究会の選による作品を掲載します。

- 鯉のぼり ときに背泳ぎ してみせる 佐藤 桂子
- 石垣を マンションにして 咲くスミレ 木村 鈴子
- 一茶の句 まねて子雀 好きな祖母 大沢 久美
- 胸張つて 真つ赤に燃える ランドセル 田村 明義
- 抜けた歯を 投げ上げる屋根 風薫る 堀田 昌江
- たんぼぼの ゆれて咲くよな 黄色帽 高田 貞子
- 竜となり 一群空へ 花ふぶき 創始者 土家 由岐雄

編集後記



広報課では毎年、狭山稲荷山公園や智光山公園、サイクリングロードなど、市内の桜を撮影していま

す。満開の期間が短い桜。開花状況を気にしながら、花見客が多い日に、今年一番の桜と花見を楽しむ皆さんを少しうらやましくカメラに収めました。また、花見が終った後、きれいにごみを片付けている姿に感謝の気持ちを持ちました。4月は、新たな門出の月です。広報課でも異動があり、これからイベント会場で、新しい広報担当者が、皆さんに声をかけていきますので、ご協力をお願いします。

分かるかな？

今月の写真クイズ

写真は、今月号に掲載した写真の拡大写真です。何ページの何の写真でしょう？



正解者の中から、抽選で5名に記念品を差し上げます。官製はがきで広報課あてにお送りください。締切り4月27日(金・当日消印有効)

3月号の答え

12ページ・ひとまち写真館の「男のパン作り教室」の写真でした。



👁️で見る「さやま」

人口と世帯(市民課) 4月1日現在。(内は前月比)

住民基本台帳人口	外国人登録人口
男 79,713人(-147人)	918人(+24人)
女 77,306人(-139人)	1,159人(+3人)
合計 157,019人(-286人)	2,077人(+27人)
世帯 62,682世帯(+11世帯)	1,508世帯(+16世帯)

3月の火災・救急件数(消防本部)
火災件数 3件(建物2件、その他1件)
救急出動件数 541件(搬送人員520人)